

指定管理施設（総合福祉センター）事業評価表
障害者福祉センター事業分

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成29年度の実施状況		平成30年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H29年	H30年							
社会生活適応訓練								実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	・教室の内容は、自主性を尊重し、利用者の話し合いによって実施した。 ・それぞれの利用者に個性があるが、自分では自分ですていただきたながらも、会では集団で協力することの大切さや、目的をもって行動することなどを学んでいただけるようにサポートをした。 ・家から出ることを習慣づけるという目的で、始まる方もいるが、内容が決まっている活動に参加をしても、集中力が欠けてしまう利用者もいる。集団での行動を持続できるようにサポートが必要と感じられた。 ・介護保険事業所の利用者で介護が主になってきている利用者や、理解に乏しく年齢を重ねるごとに介助が必要になっている利用者への対応(家族への接触等)について、今後センターとしてどうしていくかを考える必要があると感じられた。現状で分けられている教室をさらに細分化するなどの改変の必要性も感じられた。 ・活動が円滑に進むよう、ボランティアの協力が得られた。 ・月曜日は祝日が多いため、実施回数が減った。また就労支援事業所へ移行された方により参加者が減少した。
	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練	48	毎週月曜 (第4月曜 午後を除く)	・自立して生活ができるよう、自主性を尊重。 ・利用者同士の話し合いにより活動内容を決めて実施。 ・レクリエーションを交えながら活動することで、仲間づくりや社会ルールを身に付ける。 ・買物に出掛けたり、簡単に出来るおやつや昼食作りをする事で、生活する力を身につける。 ・屋外活動を体験をする事で、社会ルールを学ぶ。	4	4	45	533	40	470	△ 5	△ 63	
	1	かがやき ◇主に視覚障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練	24	第2・4水曜	・仲間と一緒に出来る事の楽しさを知る。	4	4	26	213	25	218	△ 1	5	
	1	ふれあい ◇主に重度心身障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練 ・音楽療法	48	毎週木曜	・意欲と能力に応じて生活を送れるよう支援する。 ・自立支援や仲間作りをする。	4	4	49	499	47	587	△ 2	88	
		小計	120	—	—			120	1245	112	1275	△ 8	30	

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成29年度の実施状況		平成30年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H29年	H30年							
創作活動	1	俳句教室 ・講師の指導により実施	24	第1・3火曜 午前	・自分の気持ちを俳句で表現することにより自分を見つめ直す事を目的とする。	4	4	23	181	19	173	△ 4	△ 8	・講師の丁寧な指導と、ボランティアのサポートがあるため、利用者の満足度は高かった。 ・障害の種類を問わず、好評な教室であった。 ・体調不良で休む利用者がおり、利用者数が減少した。
	1	絵手紙	12	第4火曜 午後	・自分の作品を作るとともに、他の参加者の作品と比較し交流を深める。	4	4	12	124	12	92	0	△ 32	・H30年度は、各月で講師が来館し、利用者主体でクラブを行った。楽しみにしている利用者も多く、関心度の高さがうかがわれた。いろいろな障害をお持ちの方、高齢の方も取り組むことができ、利用者には好評な教室の1つであった。 ・定期的に参加されていた方が介護保険施設へ入所され、参加者数が減少した。
	1	切り絵	24	第1・3水曜 午前	・細かい作業をする事で指先のリハビリにつなげる。 ・完成した時の喜びを期待する。	4	4	21	145	23	130	2	△ 15	・講師はいないが、作品展への出展を目標にした利用者も多く、利用者同士で切磋琢磨し合いながら取り組むことができた。 ・就労支援事業所へ移行された方により参加者が減少した。
	1	ちぎり絵	12	第4月曜 午後	・誰でも参加できる簡単な画材から始め表現力・集中力・根気さと指先のリハビリに繋げる。	4	4	12	91	11	49	△ 1	△ 42	・ボランティアが講師となり実施した。利用者のペースで、作品作りに取り組んだ。創作活動の好きな利用者にとっては、数少ない創作活動の1つとなっていると感じられた。 ・就労支援事業所へ移行された方により参加者が減少した。
	1	サロン	12	第2火曜 午後	・簡単な おやつ作りや、軽スポーツ・買物等誰でも参加でき、仲間と一緒に楽しむ。	4	4	12	103	12	88	0	△ 15	・内容は、参加者の意見を尊重しながら決定した。 ・月1回、いろいろな内容でやりたいことに取り組んだ。 ・利用者同士が協力し、楽しく活動ができた。
	1	自主活動日	12	第1金曜 午後	・誰でも自由に来館し、他の利用者と交流をはかりながら、各々のしたいことに取り組む。	4	5			10	31	10	31	・H30年度から第1金曜午後に自主活動日を設けた。来館希望者には送迎も行っていたが、自由来館し時間を過ごす利用者もいた。 ・参加者は各々好きなことに取り組んでいた。仲間と会話しながら一緒に好きなことに取り組みたいという意見もあり、仲間づくりの場として機能していると感じた。 ・新しい利用者の方が参加しやすい活動内容を設定することで窓口をより広げた。
		小計	96					80	644	87	563	7	△ 81	

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成29年度の実施状況		平成30年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H29年	H30年							
スポーツ・レクリエーション	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・スポーツ活動	12	毎週月曜日 (第4月曜午後を除く)	・健康の維持増進と身体機能の向上、社会性や協調性を養う。	4	4	8	76	2	16	△ 6	△ 60	・がんばろう会の教室の1つにスポーツ活動を取り入れている。内容は自主性を尊重し、利用者の話し合いにより実施した。 ・散歩や屋外でゲートボールなど楽しみながら運動に取り組めるようにした。交流事業で優が丘の利用者とバドミントンも行うこともあり、スポーツ活動を交流事業でカウントしているところもある。 ・身体を動かすことが苦手な利用者もいるが、参加できる範囲で全員が交流できるよう支援をした。 ・就労支援事業所へ移行された方により参加者が減少した。
	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・リズム体操 ・講師の指導により実施	12	第2月曜午後	・身体を使ってエネルギーを発散する。 ・仲間と同じ目的に向かって行動する。 ・発表の機会を設けて、達成感を味わう。	4	4	12	84	12	87	0	3	・音楽に合わせた体操を行っており、比較的若い利用者に人気であった。参加者は集中力や体力に差もあるため、講師がプログラムを工夫し、継続して取り組めるようにしていた。独自でダンスを創作している参加者には、この機会に発表してもらい、楽しんで参加できるようにしてくれていた。
	1	サウンドテーブルテニス ◇主に視覚障害者対象	12	第4水曜午前	・視覚障害者の方にとって楽しみにしているスポーツであり、仲間と楽しむ。	4	4	11	62	12	72	1	10	・座って行う体操以外に視覚障害者がスポーツとして体を動かす良い機会となっていた。 ・ボランティアの方と連携し実施しており、利用者の体力増進につながっている。
	1	かがやき ◇主に視覚障害者対象 ・音楽療法 ・講師の指導により実施	12	第4水曜午後	・音楽を楽しみながら、嚙下や身体の機能向上を図る。		4			10	59	10	59	・H29年度の「かがやき 音楽療法」は、社会参加適応訓練でカウントしていたが、レクリエーション活動に入るため、H30年度は分離してカウントした。 ・視覚障害者には音楽は楽しみの1つであり、毎回楽しみにしている方が多かった。毎回講師がプログラムを考えており、利用者は楽しんで歌を歌い、楽器に触れていた。
	1	3B体操 ・講師の指導により実施	24	第2・4火曜午前	・楽しく運動機能の維持を図る。	4	4	25	186	24	115	△ 1	△ 71	・講師が毎回プログラムを考えており、道具を使用したり、音楽に合わせての体操もあるため、集中することが難しい参加者においても、教室の中で度々変化があり、参加しやすい教室となっていた。 ・定期的に参加されていた方が介護保険施設へ入所され、参加者数が減少した。
	1	風船バレー	24	第1・3金曜午前	・楽しみながら身体を動かして運動不足の解消と身体機能の維持を図る。	4	4	22	165	24	126	2	△ 39	・座ったままできるスポーツのため、足の不自由な方や高齢の方にも参加しやすい教室であった。またルールも簡単のため、毎回盛り上がり、健康維持に努めた。 ・定期的に参加されていた方が介護保険施設へ入所され、参加者数が減少した。

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成29年度の実施状況		平成30年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H29年	H30年							
	1	軽スポーツ ・機能訓練 ・理学療法士の指導により実施	24	第1・3水曜 午後	・理学療法士の指導のもと専門的に身体機能の維持を図る。	5	5	21	163	23	156	2	△ 7	・理学療法士のプログラムによる専門的な内容となっているため、利用者には人気であった。健康維持や体力向上を目的とした高齢な利用者の参加率が高かった。
	1	音楽療法 ・講師の指導により実施	24	第1・3火曜 午後	・精神的安定と嚥下機能の向上を図る。	4	4	25	165	22	134	△ 3	△ 31	・講師が、さまざまな障害、年齢の利用者に合わせたプログラムを考え、唱歌や歌謡曲を歌い、また参加者全員で楽器を奏で、楽しい時間となった。 ・障害により集団行動が難しい参加者もいるが、参加者のペースに合わせ、全員が楽しめる活動となった。 ・体調不良や他事業所の利用のため休止する利用者もあり、利用者数が減少した。
	1	ヨガ教室(イス) ・講師の指導により実施	24	第2・4金曜 午前	・車椅子の方やマットになれない方を対象とする。	4	4	23	150	24	162	1	12	・身体の状態等に合わせて座位と仰臥位と実施しているため、参加者が参加しやすかった。 ・講師の呼吸法を中心とした運動指導のもと、年齢、障害の種類を問わず、心身の健康維持・向上の教室として好評であった。
	1	ヨガ教室(マット) ・講師の指導により実施	24	第2・4金曜 午後	・自分に合った動きと呼吸により、身体機能の維持と精神の安定を図る。	4	4	23	165	24	155	1	△ 10	・身体状況に合わせて上半身中心のヨガと全身のヨガと教室を分けている。
		小計	192					170	1,216	177	1,082	7	△ 134	
更生相談	1	障がい者にかかる相談全般	12	随時	・身体状況、生活状況、福祉制度等の相談や介護方法の助言を行う。	1	4	3	3	随時	25		22	・関心のある方や相談事のある方が、気軽に相談等に来られるように、H30年度から月に1回相談日(第3金曜午後)を設けた。 ・月のたよりに「相談日」を記載したことで利用が増えた。
		小計	12					3	3	0	25		22	
リハビリ指導	1	リハビリ指導	96	毎週水・金曜 午前	・身体機能の保持、機能回復を支援する。	5	5	88	387	95	372	7	△ 15	・鍼灸マッサージ士によるマッサージの身体リハビリを水・金曜日の教室利用者を対象に実施した。 ・専門的なアドバイスもあり、利用者に非常に好評であった。
		小計	96					88	387	95	372	7	△ 15	
送迎サービス	1	送迎サービス		随時	・通所が困難な方を対象とし、自宅までの送迎を行う。		4	253	2,633	243	2,780	△ 10	147	・教室の参加者で自力または家族送迎が困難な方に送迎サービスを実施した。 ・規定の送迎時間が決められているため、H29年度に続き、利用者に周知をした。 ・利用者が、自宅やグループホーム以外の場所での送迎を希望されることがあった。乗降場所や送迎をする時間など、要望にどこまで応えるのか検討する必要があると感じた。
		小計	0					253	2,633	243	2,780	△ 10	147	

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成29年度の実施状況		平成30年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H29年	H30年							
その他	1	障がい者レクリエーション交流会	2	7月 2月	・誰でも参加できる軽スポーツ等で障がい者、介護者、ボランティアの交流を図る。	4	5	1	90	2	326	1	236	・H30年度はバスツアーを1回減らし、新規事業としてより多くの方が参加し、交流できるレクリエーション交流会を2回開催した。 ・交流会の内容を事前の説明会やアンケートの意見を踏まえ工夫したことで、参加者が大きく増えた。 ・第2回レクリエーション交流会は、高校の吹奏楽部による音楽観賞の時間があり、非常に好評であった。
	1	障がい者バスツアー	2	9月 3月	・日ごろ外出する機会が少ない障がい者の方に外出する機会を提供し、家族、友人、ボランティアと一日楽しく過ごす。	4	4	3	125	2	98	△ 1	△ 27	9/1 奥の細道結びの記念館・岐阜公園 22名 3/2 ちこり村・中津川ふれあい牧場 26名 ・H30年度はバスツアーの回数を仕様書に沿って2回の開催へと変更した。 ・利用者の高齢化や重度化などの課題が残り、介助者同伴での参加を原則とする検討が必要と感じた。 ・ながら号(バス)の定員が決まっているため、参加者数が限定された。参加希望者が多かったため、H30年度は自社の公用車も使用し、希望に沿えるよう努めた。
	1	季節行事	随時	随時	・伝統、文化の継承	4	5	2	20	14	124	12	104	・複合センターの強みを活かし、老人デイサービスセンター、児童センターとの交流事業を多く取り入れ、ハロウィン交流会を新規に取り入れた。 ・季節行事は各教室で行っているため、「がんばろう会」、「かがやき」、「ふれあい」の教室(社会適応訓練)の参加人数と重なっている。花見や遠足、クリスマス会、初詣、恵方巻きづくりなど行った。
	1	福祉体験	6	随時	・福祉体験、福祉講座を行う事により、障がい者への理解を深めてもらう。 ・将来の福祉人材育成のきっかけ作り。	4	4	14	617	9	524	△ 5	△ 93	7/25 大原児童館小学生 11名 9/10 養正小4年生 67名 10/30 根本小 100名 11/2 北栄小 80名 11/15 精華小 114名 11/19 南姫小 21名 12/18 昭和小 54名 1/24 脇之島小 33名 1/31 笠原小 44名 ・市内の小中学校の依頼により、車いす体験の講師として小学校や児童館等に出向き、出張講座を行った。

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成29年度の実施状況		平成30年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H29年	H30年							
	2	障がい者団体意見交換会	1	5月16日	・各障がい者団体が一同に意見交流をし、事業の参考にする。	4	4	1	15	1	11	0	△ 4	・市福祉課、障がい者団体の代表者に集まっていたとき、情報交換することができた。団体に、障害者福祉センターの行事の協力依頼をした。
	2	交流事業	5	随時	・複合施設の利点を活かすとともに、社協が運営する他施設との交流を図る。	4	5	3	35	8	62	5	27	・H30年度は、行事に参加した障がい者の人数のみをカウントした。 ・複合センターの強みを活かし、児童センター、老人センター、デイサービスと交流することができた。新規交流として、母子父子センターとも夏休みに交流を行った。
	2	単発教室	3	随時	・通常のセンター利用者だけではなく、広く市内全体に公募し啓発と利用者拡大を図る。	4	4	0	0	3	23	3	23	7/31 サンドアートづくり 8/31 筋力アップ体操 3/24 骨盤底筋体操 ・新たな利用者が参加しやすい教室として単発行事を実施し、利用の窓口を拡げた。 ・H30年度は講師による作品作りや運動等企画し、3回実施した。障害者福祉センターが毎月発行している配布物と機関紙で募集し、他の教室利用者等が参加された。 ・気軽に参加できるよう「申込不要」としたため。参加者数を予想できない点は苦慮した。
	2	土曜教室(ふれんど)	12	第3土曜	・障害者の事業所を利用している方などの余暇活動と仲間作りの機会を提供する。	4	4	12	107	12	111	0	4	・独自事業として就労している方や生活介護を利用している方の交流を目的に毎月第三土曜日にサロンを実施している。 ・毎回10名ほどの利用者が来館し、近況報告などの談笑や室内でのゲーム、おやつ作り、児童センターとの交流などを楽しむことができた。 ・参加される方はある程度決まっているが、登録制ではないため、毎回の参加者数を予想できない事や送迎の有無など土曜日事業を定例化するには検討課題が把握でき、次年度へつなげることができた。
		小計	31					36	1,009	51	1,279	15	270	

(留意事項) ※「区分欄」は、指定管理者の協定書・仕様書で定められた事業は「1」、協定書等がない自主事業は「2」を記入。

平均値比(注) 105%以上:5点、105%未満～95%:4点、95%未満～85%:3点、85%未満:2～0点